

## e-ビーフNEWS 北の牧場から

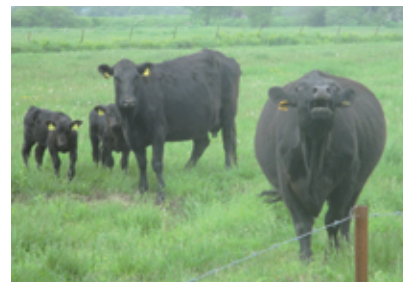
July 2019

## 十勝の初夏

寒暖の差が激しすぎる。朝10℃以下日中30℃超え—いい加減してよと言いたいですね。

やっと砂漠状態から抜け出したら、ドシャ降り雨と好天の交互で作物は驚きながらも早稲低成長から抜け出し順調に青々と茂り畑を埋め尽くしています。今年は期待できるかな。一番牧草も早め刈り取り、好天が続くのでなんと良質乾牧草もできています。天候不順な日が続くのでロールサイレージが大半、乾草ができなかったのがこの数年でした。青々した乾草ロールを見ると夏の北海道とうれしくなります。

鳥たちが3時を過ぎるとピークパーチク明るくなって夏至を実感します。この期間動物たちの繁殖子育ての真っ盛り。活発の動きでそこらじゅうで目にしますし危険です。街のカラスは通行人を襲ってきます。牧場では子牛の出産～子育てへ 母牛もキツネや人間に持って行かれないよう神経を研ぎすましています。



## 活動のお知らせ

7月6日(土) 13:00～ 18:00 日本獣医生命科学大学  
第4回国際シンポジウム「世界のAW畜産企業ビジネスが日本をどう変革するのか?」  
アニマルウェルフェアフードコミュニティジャパン主催 <https://awfc.jp>  
8/2(金)～3(土) 新宿NSビル オーガニックライフスタイルEXPO

## NEWSばか読み

- 十勝畜産公社 対米輸出施設認定 道内初全国14番目  
6/1:北海道もやっとなぞ
- Jミルク需給見通し 生乳4年ぶりに増産 6/1:酪農減少も底か
- 米中貿易戦争で世界貿易が急変 中国生産の移転や迂回輸出  
6/1:周りが恩恵実態変わらず
- ふるさと納税 新制度スタート 返礼品地場に限定 6/1:地域特徴見直し
- 厚生労働省 認知症施策で数値目標を下げ 6/4:深刻さは増す
- 農林水産省 肥料規格の緩和 堆肥・化成肥料の配合販売可能に  
6/5:土壌把握から
- 食育白書 若者の「食の自立」が課題 低い健康意識  
6/5:良いもの食べていないもの
- 京都市 食べ残しゼロ推奨店1300超す 6/5:おばんさいは残さないよ
- 和牛子牛相場 4ヶ月ぶりに下げ 枝肉相場不調 6/6:高すぎ
- 静岡県畜研 牛ふんバイオマス燃料で発電建設  
6/6:余ったウンコは燃やすか
- 豚コレラ 25例目10万頭超す 感染防止策で早期出荷推奨  
6/7:豚がいなくなる
- 棚田法案 衆議院通過 6/7:実行案が課題
- 農業新聞来日者アンケート調査 中国からの肉製品持込みが容易  
6/11:防疫体制に穴
- 19年度産みかん、リンゴ減少傾向80万t前後に 6/12:後継者深刻
- 高齢者運転免許で安全サポート車限定に 6/12:年寄り危険
- 使い捨てプラ製品廃止が世界的に拡大 6/12:基本的な消費の見直し
- 農林水産省調査 GAP認識が流通・消費者では5割に留まる  
6/13:安心安全の担保
- 食品輸出の伸びに黄色信号 1兆円未達か 6/13:一旦内容の見直し必要かも

- 青森リンゴ農家の廃園が増加 高齢者・人手不足に 6/13:人はいるのに
- 豚コレラの影響で家畜市場・と場関係者の経営に影響 6/14:全てに影響
- Jミルク 19年度産生乳見通し 北海道400万t超えシェア55%  
6/15:北海道集中
- 林野庁 脱プラ木製ストロー製品化 間伐材使用  
6/18:木製化でまだまだ活用
- 政府 農業基本方針案 スマートと有機農業推進  
6/19:わかっているじゃないか
- 厚生労働省 ゲノム編集食品の表示義務化は困難との見解  
6/21:えっ諦めちゃうの
- 大規模植物工場 半数は赤字 6/21:再生エネの活用が根幹
- 警察庁 18年度の認知行方不明者が1.7万人 6年連続増加  
6/21:カウントされないよう
- 日本乾燥おから協会18年度生産量2000t超え健康志向の高まり  
6/21:協会あるんだ
- 和牛共進会(和全共) 脂肪の質評価の部門設定 6/22:赤身も
- 登録協会 18年度基本登録が5.7%増加 6/22:和牛繁殖増加の気配
- 納豆大豆で18年度自給率22%に増加5年で2.5倍に 6/24:魅力的生産物
- 日ロシア協議 鶏肉の輸入と和牛輸出で協議 6/25:食肉貿易の広がり
- セブンおにぎり全商品にサトウキビ由来の包装資材を投入開始  
6/25:脱プラ一歩
- 鶏卵相場低迷で廃鶏処理追い付かず 施設が減り負担増加 6/25:循環性
- 政府 農業次世代人材投資事業の見直し検討 6/26:生かされる補助制度
- 中国 大豆輸入依存脱却からの生産施策で失敗 6/26:どこかの国同様
- 農林水産省 和牛精液の流通記録の義務化検討 6/27:精液のトレサビ
- 子ども食堂 1.6倍の3700か所に拡大 地方に広がり 6/27:食育原点
- 西友 ウォルマート事業売却から株式上場へ転換 6/27:地域性重視
- 北海道子実コーン組合(長沼) ばら積み用簡易サイロ建設  
6/28:国内コーンに期待

## 東京直近NEWS (6/28 Shi-REPORT)

## ホルス

相場は若干の上げ基調維持。

頭数出回りは減少傾向続いており、各社取り扱い頭数減により工場稼働にも影響。販売状況は梅雨入り時期と不需要期から消費は低迷状況。販売不振から、枝相場は高値維持も部分肉への価格転嫁が進まない。季節柄、焼き材部位やロースは需要有り。切り落としは慢性的に不足感あるものの、こちらも価格が枝単価に見合わない。消費低迷と頭数減少で需給バランスはとれているが、枝価格に対しての部分肉評価が低い。需要期の秋以降に向けても、頭数の回復は見込めず相場がきになるところ。

## 経産牛

経産牛相場は高騰続けており、出回り頭数も想定以上に少ない。

頭数不足から産地工場の稼働はかなり落ち込んでおり、工場によっては、枝原料確保できず休業する場面も散見される。在庫関係も各社逼迫しており、すでに底が見えてきている状況。特に挽き材在庫はほぼ底をついてきており欠品状況。枝相場急騰から各社価格改定へ動いているが、絶対数量が不足してきている。夏場以降も回復してくる見込みは非常に弱く、頭数不足は深刻。

# 左先生の畜産学研究NEWS

今月はいよいよ参院選です。6月26日の会期末前に国会は閉幕、投開票は7月21日で結局は衆参同日選ではなく今年最大の政治決戦突入となりました。安倍政権への評価、年金問題、改憲などが争点でしょう。選挙前の最大の政治ショーは日本で初めて開催のG20大塚サミットです。経済・貿易問題や廃プラスチック削減など地球環境問題も議論がおこなわれます。政権は経済・米中貿易問題中心に日本の議長国としての役割を強調したいところでしょうが、農業者はそれらと共に地球環境問題に高い関心があります。国連が主導するSDGsなどの活動に世界全体が関心を持ってその具体策を議論して欲しいと思います。eーびーふNews67号の学術情報は以下の通りです。

## 1. 畜産技術#769, 2019.6

### 1) 研究レポート1: 黒毛和種における肉質格付成績と脂肪酸組成の遺伝的関係(井上慶一、家改せ)

黒毛和種牛の肉質格付け形質では脂肪交雑(BMS)が重視されてきましたが、これらの形質と脂肪酸組成の遺伝的関係を検討すると必ずしも同時改良が可能ではないようです。肉質格付け形質と脂肪酸組成間の解析では不飽和度と脂肪色の改良とは並行せず不飽和度の改良は脂肪の黄色化を進め、改良にはバランスの配慮が必要です。

### 2) 地域の動き: スマート畜産の推進について(篠田秀明、長野県)

長野県における酪農・肉牛への先端技術導入による効率的分業システム構築の事業展開の紹介です。県がICT機器(牛の発情発見機器、分娩監視機器)を購入、畜産農家に貸与しICT機器の導入効果の検証した結

果では、分娩間隔の短縮、子牛の事故率低減、労働時間の短縮などに効果がみられました。

### 3) お知らせ: 第4回国際シンポジウム「世界のAW畜産企業ビジネスが日本をどう変革するのか?」-オランダの有機放牧養豚・放牧肉牛牧場とグローバル食品大企業・ベンチャーキャピタルのAW戦略-

2019.7.6 13:00-18:00 於: 日本獣医生命科学大学E棟 ;本シンポジウムは AWFCJapan(アニマルウエルフェアフード コミュニティジャパン)が2016年設立より全ての家畜のストレスを解放する畜産システムを普及させる活動の一つです。3題の講演とパネルディスカッションの構成です。講演1)オランダ有機放牧畜産のAW認証ロゴ使用と日本への輸出計画 Drキース・スキーペンス 2)グローバル食品企業・ベンチャーキャピタルによるAWビジネスの世界戦略 Ms.ニッキー・エイモス 3)日本のAW畜産の現状と展開方向 松本洋一

## 2.日畜会報Vol.90: 2, 141-146(2019)

### 十勝若牛〇Rにおける画像解析形質およびオレイン酸割合と一般型官能評価の関連性(濱中珠華他、帯畜大)

約14ヵ月齢出荷される乳用種若齢肥育牛(十勝若牛〇R)412頭のうま味、香りやわかさなどの官能評価と画像解析形質及びオレイン酸割合との関連性を検討しました。6-7横断面の筋間脂肪のオレイン酸割合は脂肪面積割合とは異なり官能評価間の相関係数が低く、筋間脂肪のオレイン酸割合が官能特性に寄与する可能性は低いものと思われました。

# 国産牛 NEWS

話題提供3.「有機畜産の理想と現実」 全4回シリーズ②  
北里大学獣医学部附属 FSC八雲牧場 小野 泰 係長



### 有機畜産物の原則

- ①環境への負荷をできる限り低減して生産された飼料を給与することを基本とする。
- ②動物用医薬品の使用を避けることを基本とする。
- ③動物の生理学的及び行動学的要求に配慮して飼養する。(動物福祉)

↓

**八雲牧場の有機管理は有機JAS基準と大きな差異はなかった。**

- ・畜種の整備(記録)、導入資材の安全性の確認、出荷後屠畜から格付けまでの段取りなど

### 有機畜産への取り組み

#### 〇放牧地における分娩(夏期)

2.5ha放牧地 飲んで ねて

- 〇5月下旬から10月下旬まで実施。
- 〇分娩2週間前から分娩後1か月までの親子10組を放牧。1組当たり2500㎡。
- 〇牛舎より分娩事故・疾病が少ない傾向。



### 〇6か月間の哺乳

- 〇早期離乳やスターターは与えない代わりに6か月間しっかり哺乳させる。
- 〇6か月後の体重は250~300kg。
- 〇重篤な疾病にかかりにくい。
- 〇現在町内にも普及しているが獣医いらずとして有名。

### 〇化学肥料代を敷料代へ

~2004年 化学肥料等を購入

変更 ↓ 敷料代へ

変更 ↓ 堆肥

堆肥 → 牛舎管理の改善 → 敷料の購入

ゆったり休息できる環境へ